

11. 全自動圧密試験機の紹介

浅田 毅
溝口 義弘

要 旨

近年、話題の高まっているウォーターフロント、ジオフロントでの開発を行っていくにあたって、地盤の沈下を予測するために必要な高圧圧密試験を行うことができる試験機が必要とされている。本報告書はこのたび、技術研究所の開設にともない、土質試験室内に新しく51.2 kgf/cm²まで載荷できる全自動高圧圧密試験機を設置したので、その機器の内容を紹介するものである。

キーワード

高圧圧密試験機／試験機の構造／制御、集録・処理システム

目 次

1. はじめに
2. 試験機の構造および制御、集録・処理システム
3. 出力例
4. あとがき

11. INTRODUCTION TO A FULL-AUTOMATIC CONSOLIDATION APPARATUS

Tsuyoshi Asada
Yoshihiro Mizoguchi

Abstract

To successfully develop the water front and geo-front, which have recently attracted high interest, an apparatus is needed to execute the high-pressure consolidation test necessary to obtain settlement of subsoils. Recently, we installed a full-automatic high-pressure consolidation apparatus capable of loading up to 51.2kgf/cm² in our laboratory. We prepared this report for your knowing the details of this apparatus.

1. はじめに

ウォーターフロント開発工事などで埋立てによる土地造成が大規模になると、高盛土および長大な構造物の上載荷重による影響が基礎地盤の深部まで及ぶことになる。したがって、沖積粘土地盤はもちろんのこと、地下100~200mの洪積粘土地盤の沈下を考慮する必要がある。このような洪積粘土では圧密降伏応力（ R_c ）が15~25kgf/cm²にもなり、標準の圧密試験機では圧密降伏応力を求めることができない。この度、技術研究所に設置した圧密試験機は、25.6, 51.2kgf/cm²の高荷重段階まで载荷できる試験機であり、この目的にこたえてくれるものと思っている。以下、この試験機の構造、制御およびデータの集録・処理システムについて述べる。

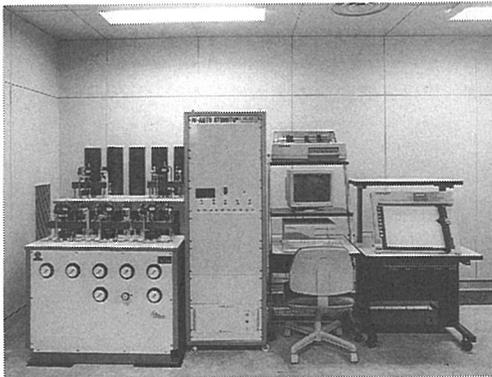


写真-1 試験装置

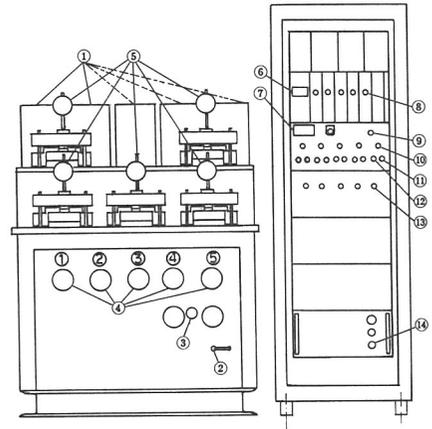
2. 試験機の構造および制御・処理システム

本試験機は、パーソナルコンピュータによって試験の開始から終了まで荷重の载荷、計測を自動的に行うとともに、計測データの集録、計算および結果まで自動的に出力するシステムを有している。

2.1 試験機の構造

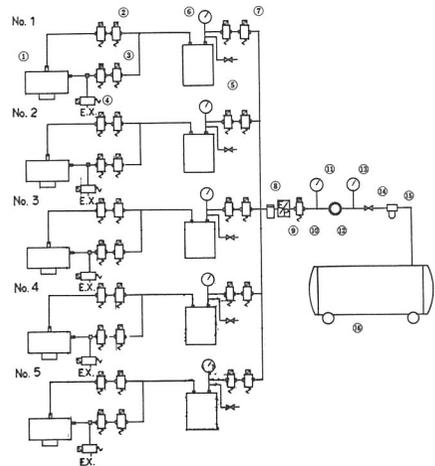
低荷重（ここでは0.1~3.2kgf/cm²）から高荷重（ここでは6.4~51.2kgf/cm²）までの自動载荷を制御しやすいように、空気圧による载荷装置を採用している。図-1は試験装置の模式図であり、载荷装置本体と制御ボックス各部の名称を示している。

図-2は圧力制御ブロック図であるが、コンプレッサで作られた圧縮空気は開閉弁②、レギュレータ③、一次圧力電磁弁⑩を通り、所定の圧力になるようにE/P弁⑨が開かれ、二次圧力電磁弁⑦を通して蓄圧タンク⑤に供給される。タンク内の圧力が設定された値



- | | |
|---------------|--------------|
| ①蓄圧タンク | ②開閉弁 |
| ③レギュレータ | ④圧力計 |
| ⑤変位計 | ⑥温度計 |
| ⑦空圧計 | ⑧リセットボタン |
| ⑨一次圧力弁 S.W. | ⑩二次圧力弁 S.W. |
| ⑪低圧用圧力弁 S.W. | ⑫高圧用圧力弁 S.W. |
| ⑬高圧圧力排気弁 S.W. | ⑭電源 S.W. |

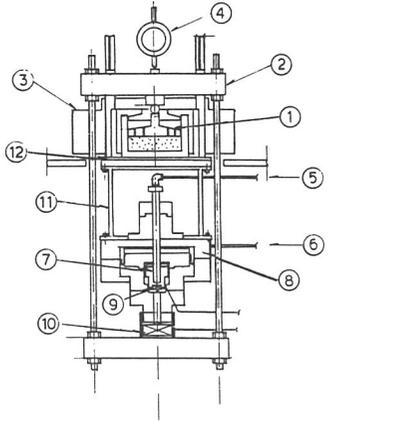
図-1 試験装置の模式図



- | | |
|---------|----------|
| ①負荷シリンダ | ②低圧用圧力弁 |
| ③高圧用圧力弁 | ④高圧圧力排気弁 |
| ⑤蓄圧タンク | ⑥圧力計 |
| ⑦二次圧力弁 | ⑧プースタ |
| ⑨E/P弁 | ⑩一次圧力弁 |
| ⑪圧力計 | ⑫レギュレータ |
| ⑬圧力計 | ⑭開閉弁 |
| ⑮エアクリーナ | ⑯コンプレッサ |

図-2 圧力制御ブロック線

になると、低圧部の場合は電磁弁②，高圧部では電磁弁③が開いて、負荷シリンダに圧縮空気ははいり、加圧板を介して試料に加圧される。载荷は各圧密箱毎，各荷重段階毎個々に可能な構造となっている。

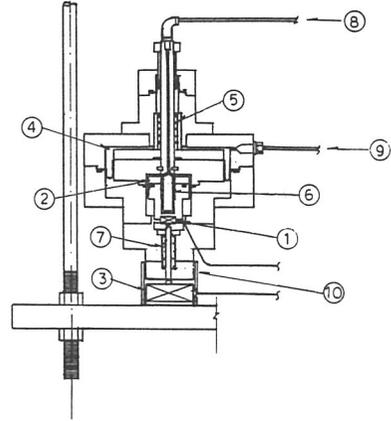


- ①加圧板
- ②载荷フレーム
- ③バランスウエイト
- ④変位計
- ⑤低圧用回路
(0.1~3.2kgf/cm²)
- ⑥高圧用回路
(6.4~51.2kgf/cm²)
- ⑦低圧用負荷シリンダ
- ⑧高圧用負荷シリンダ
- ⑨ロードセル (200kgf)
- ⑩ロードセル (2000kgf)
- ⑪負荷シリンダ
- ⑫载荷台
取付フレーム

図-3 载荷装置の構造

図-3は载荷装置の構造を示したものであるが、低圧部では低圧用回路⑥を通して低圧用負荷シリンダ⑦に圧縮空気が供給され、ロードセル⑨(最大200kgf)で载荷荷重が測定される。低圧部から高圧部に荷重段階が移る場合は、低圧用回路は電磁弁によって閉じられ、高圧用回路⑥が開かれて高圧用負荷シリンダ⑧に圧縮空気が供給され、荷重の測定はロードセル⑩(最大2tf)によって行なわれる。

空圧式の場合、各接合部等からの空気漏れや、実験室の温湿度(当社では恒温恒湿室に設置)が一定していないと、空気の体積変化等が起こり载荷荷重が一定せず、不安定な状態になる。そのため本装置では、図-4に示すようにロードセル①、ロードセル③、CPU、E/P弁、蓄圧タンクを結ぶフィードバック回路を設け、荷重が一定になるような载荷システムとなっている。写真②は、図-4に示した負荷シリンダの実物写真である。



- ①ロードセル (200kgf)
- ②低圧用負荷シリンダ
- ③ロードセル (2000kgf)
- ④高圧用負荷シリンダ
- ⑤スプリング
- ⑥スラストベアリング
- ⑦スラストベアリング
- ⑧低圧用回路
- ⑨高圧用回路
- ⑩ガイド

図-4 負荷シリンダの構造

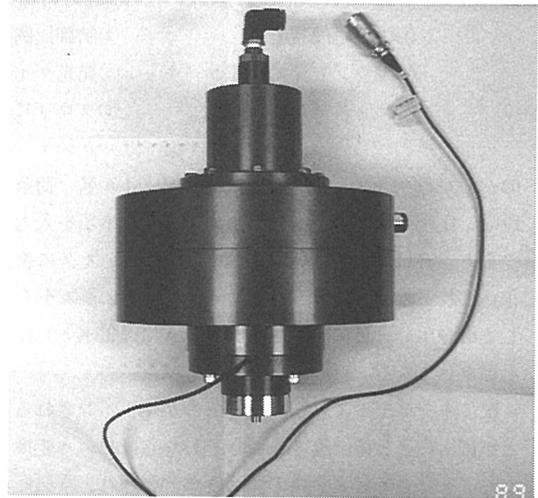


写真-2 負荷シリンダ

2.2 試験機の制御・処理システム

前述したように、本試験機はパーソナルコンピュータによって試験の開始から終了までの制御・データの集録・計算および結果の出力までの処理を自動的に行うとともに、試験の载荷状況をディスプレイ上でモニタすることができる。

図-5はシステムの機器構成と接続系統図を示している。パーソナルコンピュータ(PC-9801RX4)

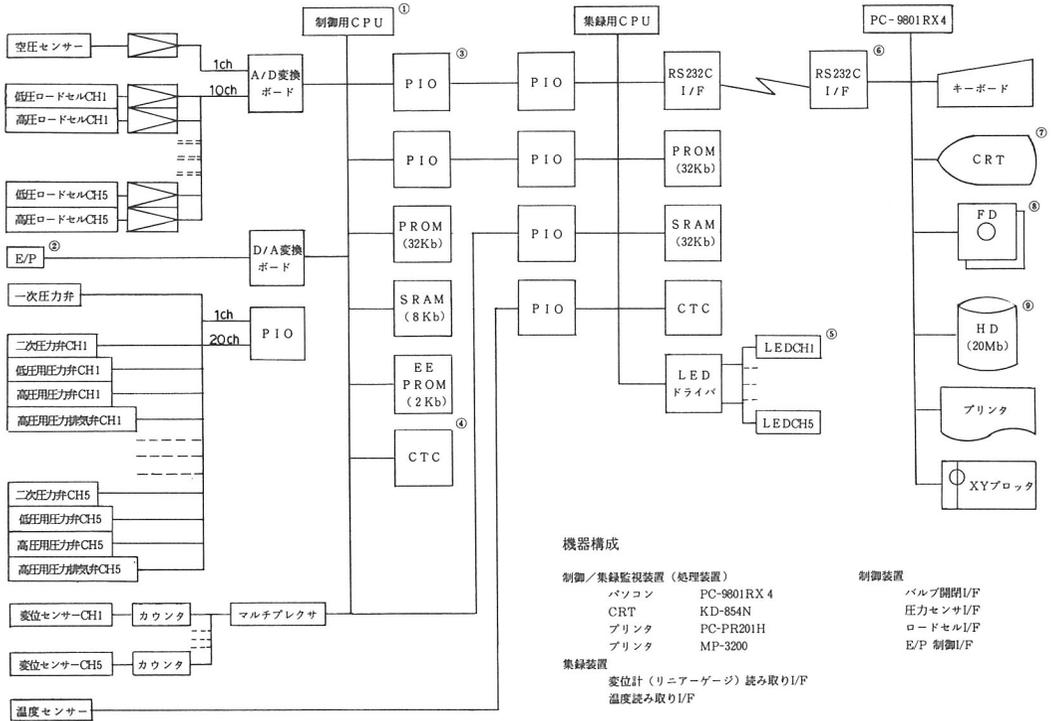


図-5 システムの機器構成と接続系統図

のディスプレイ上の入力画面で試料のファイル名、荷重段階、圧密時間および結果の出力に必要な事項を入力すると、PC-9801RX4のフロッピーディスクに書き込まれるとともにRS232Cインターフェイスを介して集録用CPUに伝達され、SRAM(32Kb)にも書き込まれる。

次にキーボードより制御開始命令がキーインされると制御用CPUに伝達され、CPUからはD/A変換ボードを通じてE/P弁の開閉度が制御され、空気圧が設定される。空圧センサーの測定値はA/D変換ボードを通じて制御用CPUに伝えられ、蓄圧タンク内の空圧が設定値になると各電磁弁の開閉がなされ、荷重の載荷が完了する。同時に制御用CPUより集録用CPUに載荷完了の信号が送られ計測が開始される。変位センサーよりのデータは所定の計測時間間隔(6,9,15,30sec,1,1.5,2,3,5,7,10,15,20,30,40min,1,1.5,2.0,3,6,24h)でサンプリングされ、一旦集録用SRAM内に記録されるが、測定終了後にPC-9801RX4内のフロッピーディスクに書き込まれる。圧密試験

結果の報告書の作成はフロッピーディスク内のファイルデータを使ってPC-9801RX4内で計算、編集が行なわれ、プリンタ、XYプロッタにより出力される。

3. 出力例

以下に、この圧密試験機を使って海面下100m付近の洪積粘土について圧密試験機を行なった結果の出力例を示す。結果の出力にあたって、PC-9801RX4内のディスプレイに編集画面を出力させ、測定データ以外に報告書の作成に必要なデータを入力する。それらのデータを使って計算・編集が行われプロッタ上に出力される。

出力例①,②,③の圧密降伏応力および圧縮指数は、

それぞれ ① $P_c = 10.81 \text{ kgf/cm}^2$, $C_c = 1.35$

② $P_c = 11.67 \text{ kgf/cm}^2$, $C_c = 1.45$

③ $P_c = 8.80 \text{ kgf/cm}^2$, $C_c = 0.79$

となっている。

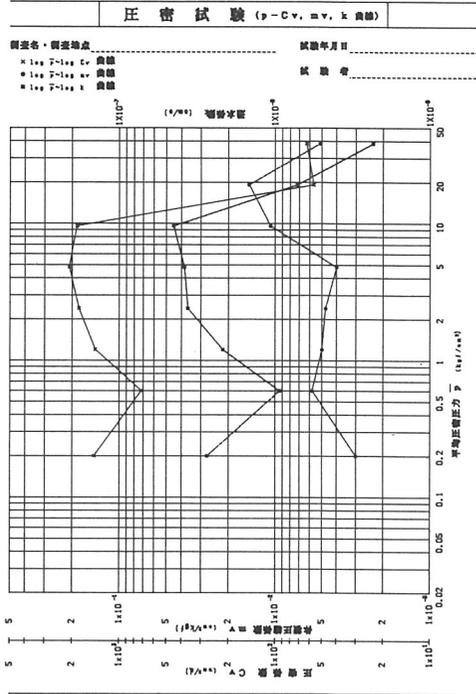
出力例①

圧密試験 (計算書)

JIS A 1217		圧密試験 (計算書)		報告用紙					
調査名・調査地点		試験年月日		年月日					
試験番号・標さ: No. R-1 (92.2m - 95.5m)		試験者							
試験の状況		室温	℃	試験機番号	No. 1				
土質名称		無側限圧 A_{un} cm^2	28.27	含水比 w , %	59.58				
土粒子の比重量 G_s	2.662	高さ h , cm	2.00	液性比 L , %	2.587				
最終含水率 w_f , %	91.80	圧縮係数 e_{max}	58.19	閉鎖比 e_c	1.587				
液性限界 w_L , %	32.40	貫入部の高さ h_0 , cm	0.7351	飽和度 S_v , %	99.94				
測定	圧力 P kgf/cm^2	圧縮量 Δd mm	試験高さ h cm	平均試験速度 \bar{v} cm/min	圧縮ひずみ ϵ %	無側限圧 A_{un} cm^2	液性比 L	閉鎖比 e_c	計算式
0	0.00	0.40	2.000	1.8888	0.1200	3.00×10^{-8}	2.587	1.587	$A_u = \frac{L(1-w)}{100} \times 100$
1	0.40	0.40	1.998	1.9953	0.2305	3.78×10^{-8}	2.584	1.584	$e_c = \frac{L(1-w)}{100}$
2	0.80	0.80	1.988	1.9981	0.3872	4.98×10^{-8}	2.578	1.578	$e = \frac{\Delta d}{d} \times 100$
3	1.60	1.60	1.985	1.8777	0.7531	6.71×10^{-8}	2.568	1.568	$m = \frac{e - e_c}{1 - e_c}$
4	3.20	3.20	1.970	1.8577	1.2770	9.98×10^{-8}	2.548	1.548	$r = \frac{e}{1 - e}$
5	6.40	6.40	1.945	1.8688	1.9562	1.37×10^{-7}	2.516	1.516	$S_v = \frac{e - e_c}{1 - e_c}$
6	12.80	12.80	1.918	1.8587	3.0838	1.48×10^{-7}	2.348	1.348	$\beta = \frac{1 - e_c}{1 - e}$
7	25.60	25.60	1.903	1.4188	13.0558	5.10×10^{-8}	1.944	0.944	γ 係: $c = \frac{0.001 \beta P}{1 + m}$
8	51.20	51.20	1.919				1.706	0.706	γ 係: $c = \frac{0.001 \beta P}{1 + m}$
9									最終含水率: $w_f = \frac{0.001 \beta P}{1 + m} \times 100$
測定	圧力 P kgf/cm^2	t_{90} min	圧密係数 c_v cm^2/min	一次圧密係数 c_{v1} cm^2/min	二次圧密係数 c_{v2} cm^2/min	圧密係数の測定値 c_v cm^2/min	透水係数 k cm/s		
0	0.00	0.20	0.840	1.45×10^4	1.300	0.542	7.88×10^2	2.79×10^{-8}	
1	0.40	0.60	1.880	7.18×10^4	0.800	0.188	3.41×10^2	3.38×10^{-8}	
2	0.80	1.20	0.850	1.42×10^4	2.100	0.288	3.77×10^2	2.17×10^{-8}	
3	1.60	2.40	0.680	1.81×10^4	5.500	0.388	3.87×10^2	8.84×10^{-8}	
4	3.20	4.80	0.580	2.08×10^4	8.800	0.388	3.27×10^2	3.82×10^{-8}	
5	6.40	9.60	0.580	1.88×10^4	25.100	0.185	3.82×10^2	4.48×10^{-8}	
6	12.80	19.20	14.800	5.84×10^4	285.100	0.750	3.23×10^2	7.23×10^{-8}	
7	25.60	38.40	9.800	3.27×10^4	115.400	0.628	3.83×10^2	2.32×10^{-8}	
8	51.20								圧密係数 C_c : 1.847
9									圧密係数 C_c : 10.814

(社)土質工学会 (JIS規格) 542

圧密試験 (P-Cc, mv 曲線)



出力例②

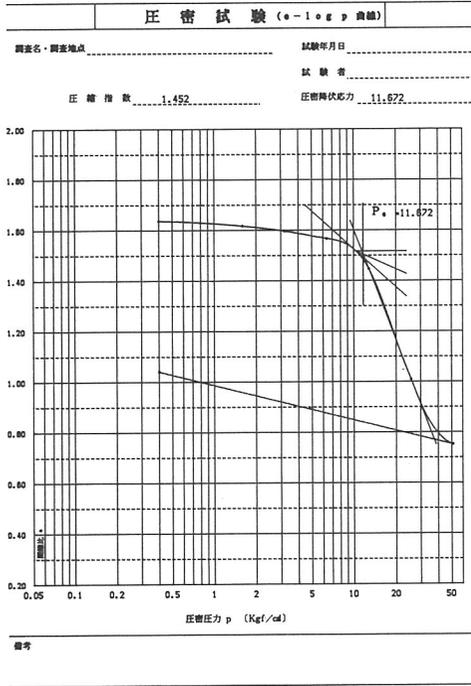
圧密試験 (計算書)

JIS A 1217		圧密試験 (計算書)		報告用紙					
調査名・調査地点		試験年月日		年月日					
試験番号・標さ: No. R-2 (94.0m - 95.0m)		試験者							
試験の状況		室温	℃	試験機番号	No. 2				
土質名称		無側限圧 A_{un} cm^2	28.27	含水比 w , %	60.85				
土粒子の比重量 G_s	2.667	高さ h , cm	2.00	液性比 L , %	2.642				
最終含水率 w_f , %	99.70	圧縮係数 e_{max}	57.09	閉鎖比 e_c	1.642				
液性限界 w_L , %	31.90	貫入部の高さ h_0 , cm	0.7571	飽和度 S_v , %	98.53				
測定	圧力 P kgf/cm^2	圧縮量 Δd mm	試験高さ h cm	平均試験速度 \bar{v} cm/min	圧縮ひずみ ϵ %	無側限圧 A_{un} cm^2	液性比 L	閉鎖比 e_c	計算式
0	0.00	0.40	2.000	1.9981	0.1802	3.75×10^{-8}	2.642	1.642	$A_u = \frac{L(1-w)}{100} \times 100$
1	0.40	0.40	1.998	1.9936	0.2808	3.52×10^{-8}	2.637	1.637	$e_c = \frac{L(1-w)}{100}$
2	0.80	0.80	1.991	1.9936	0.2808	3.52×10^{-8}	2.630	1.630	$e = \frac{\Delta d}{d} \times 100$
3	1.60	1.60	1.981	1.9980	0.5035	3.79×10^{-8}	2.617	1.617	$m = \frac{e - e_c}{1 - e_c}$
4	3.20	3.20	1.966	1.8733	0.7855	3.81×10^{-8}	2.586	1.586	$r = \frac{e}{1 - e}$
5	6.40	6.40	1.945	1.8543	1.1513	3.80×10^{-8}	2.448	1.448	$S_v = \frac{e - e_c}{1 - e_c}$
6	12.80	12.80	1.852	1.8875	1.7958	4.48×10^{-8}	2.448	1.448	$\beta = \frac{1 - e_c}{1 - e}$
7	25.60	25.60	1.521	1.8886	18.8188	1.53×10^{-7}	2.009	1.009	γ 係: $c = \frac{0.001 \beta P}{1 + m}$
8	51.20	51.20	1.328	1.4238	13.8877	3.36×10^{-8}	1.752	0.752	γ 係: $c = \frac{0.001 \beta P}{1 + m}$
9									最終含水率: $w_f = \frac{0.001 \beta P}{1 + m} \times 100$
測定	圧力 P kgf/cm^2	t_{90} min	圧密係数 c_v cm^2/min	一次圧密係数 c_{v1} cm^2/min	二次圧密係数 c_{v2} cm^2/min	圧密係数の測定値 c_v cm^2/min	透水係数 k cm/s		
0	0.00	0.20	0.400	3.04×10^4	1.100	0.289	3.81×10^2	1.85×10^{-8}	
1	0.40	0.60	1.010	1.20×10^4	0.800	0.178	3.08×10^2	1.57×10^{-8}	
2	0.80	1.20	1.120	1.87×10^4	2.900	0.280	3.11×10^2	2.27×10^{-8}	
3	1.60	2.40	0.980	1.21×10^4	5.800	0.381	3.81×10^2	2.82×10^{-8}	
4	3.20	4.80	0.770	1.51×10^4	10.100	0.448	3.78×10^2	2.83×10^{-8}	
5	6.40	9.60	0.880	1.12×10^4	21.800	0.241	2.70×10^2	2.34×10^{-8}	
6	12.80	18.20	24.470	3.52×10^4	257.100	0.777	3.73×10^2	1.85×10^{-8}	
7	25.60	38.40	11.870	5.18×10^4	124.800	0.841	3.31×10^2	2.05×10^{-8}	
8	51.20								圧密係数 C_c : 1.452
9									圧密係数 C_c : 11.872

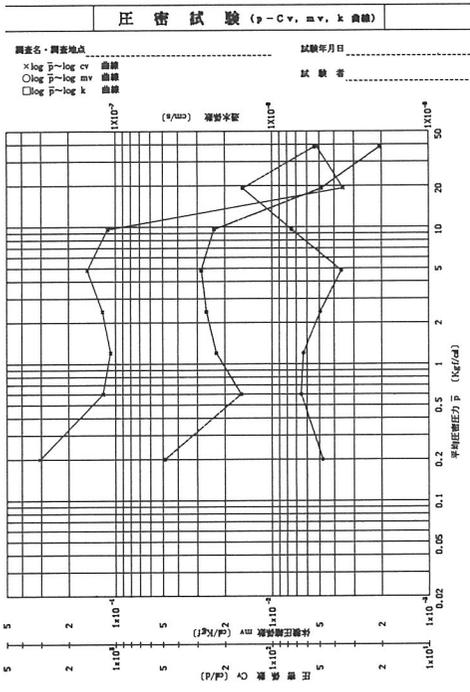
備考

(社)土質工学会 (JIS規格) 542

圧密試験 (e-LogP曲線)



圧密試験 (P-Cc, mv曲線)

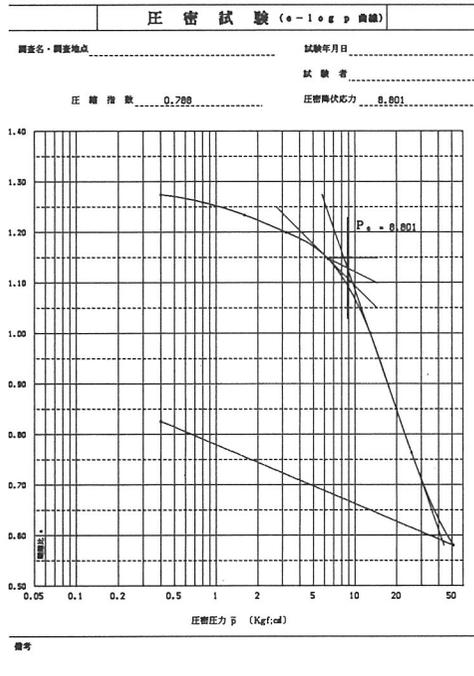


出力例③

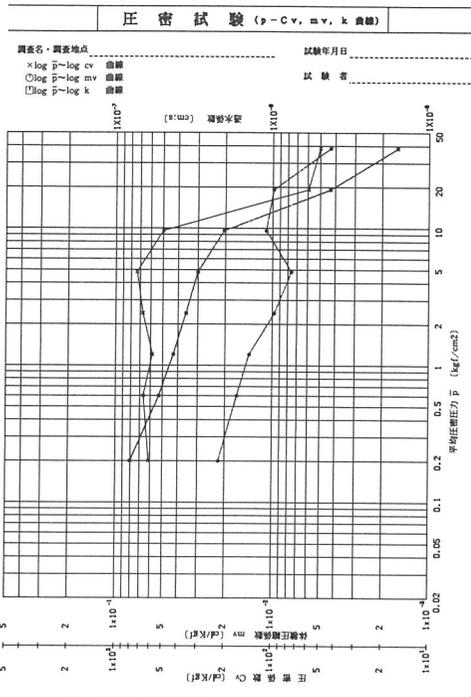
圧密試験 (計算書)

JIS A 1217	圧密試験 (計算書)	報告用紙
調査名・調査地点	試験年月日	年月日
試験番号・層: No. B-3 (0.0, 1.0 - 9.7, 1.0)	試験者	
試験の状況	室温	℃
土質名	試験器 A	mm
土質子の高さ G	高さ A ₀	mm
縦断長さ m ₀ %	縦断質量 (m ₀ -m ₁) g	縦断比 f ₀ %
縦断含水率 w ₀ %	縦断断面の長さ A ₁ cm	縦断含水率 S _w %
		計算式
圧力 p (kgf/cm²)	圧縮率 e	圧縮率 e ₀
0	2.000	2.294
1	1.889	2.274
2	1.869	2.259
3	1.849	2.254
4	1.818	2.199
5	1.872	2.147
6	1.744	2.001
7	1.539	1.783
8	1.877	1.580
9		
圧力 p (kgf/cm²)	圧縮率 e	圧縮率 e ₀
0	0.00	0.00
1	0.00	0.00
2	0.00	0.00
3	1.00	0.00
4	2.00	0.00
5	3.00	0.00
6	4.00	0.00
7	5.00	0.00
8	6.00	0.00
9	7.00	0.00
10	8.00	0.00
11	9.00	0.00
12	10.00	0.00
13	11.00	0.00
14	12.00	0.00
15	13.00	0.00
16	14.00	0.00
17	15.00	0.00
18	16.00	0.00
19	17.00	0.00
20	18.00	0.00
21	19.00	0.00
22	20.00	0.00
23	21.00	0.00
24	22.00	0.00
25	23.00	0.00
26	24.00	0.00
27	25.00	0.00
28	26.00	0.00
29	27.00	0.00
30	28.00	0.00
31	29.00	0.00
32	30.00	0.00
33	31.00	0.00
34	32.00	0.00
35	33.00	0.00
36	34.00	0.00
37	35.00	0.00
38	36.00	0.00
39	37.00	0.00
40	38.00	0.00
41	39.00	0.00
42	40.00	0.00
43	41.00	0.00
44	42.00	0.00
45	43.00	0.00
46	44.00	0.00
47	45.00	0.00
48	46.00	0.00
49	47.00	0.00
50	48.00	0.00

圧密試験 (e-LogP曲線)



圧密試験 (e-LogP曲線)



4. あとがき

Ma.12～Ma. 9 (地下100～200 mの海成粘土) のような洪積粘土の場合、過圧密比 (OCR) が1.1～1.3であっても上載荷重によって2次圧密がおこり、期間も比較的長期にわたる場合がある。また出力例でも示しているように、圧密沈下曲線の作成方法により圧密降伏応力の値に大きなバラツキがみられるという指摘がなされている。したがって今後この試験機を使って長期の圧密試験を行い、洪積粘土のクリープ的な挙動を研究するとともに、荷重増加率 $\Delta P / P = 1$ (標準荷重) での圧密試験で求めた圧密降伏応力 P_c 、 $\Delta P / P < 1$ の小載荷巾での圧密試験で求めた P_c 、定ひずみ試験で求めた P_c の各値を比較検討してその整合性を研究していきたいと考えている。